

令和4年度 広島県 二ホンジカ林業被害実態調査 結果報告



本県では二ホンジカの増加と分布拡大に伴って、人工林への被害が生じています。スギ・ヒノキ等の主伐・再造林を推進するため、林業被害の実態把握と効果的な被害防除対策の検討を目的に本アンケートを実施しました。

調査結果をもとに、今後被害軽減に必要な対策等を検討していきます。
※本アンケートは、5か年以内に植栽を行った施業地を対象としています。

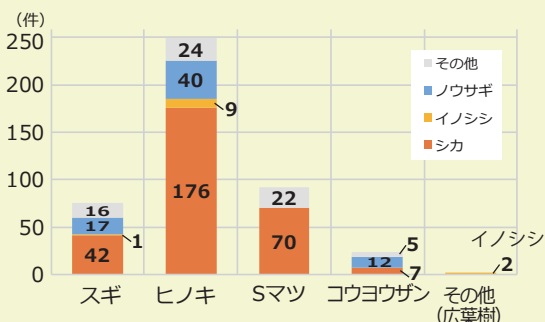
令和4年度の調査結果の一部を紹介します

■ アンケートの実施状況

830 施業地を対象にし、812 施業地より回答を得ました（回答率 97.8%）。

■ 対象樹種と主な加害鳥獣

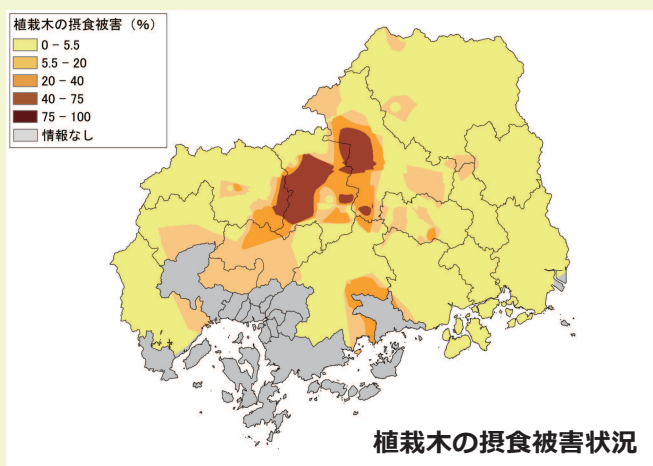
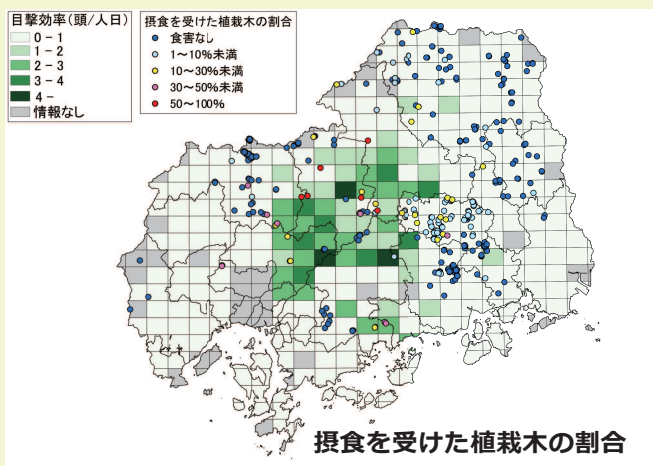
ヒノキの施業地での被害が最も多く、その70%以上は「シカ」による被害でした。



対象樹種と主な加害鳥獣

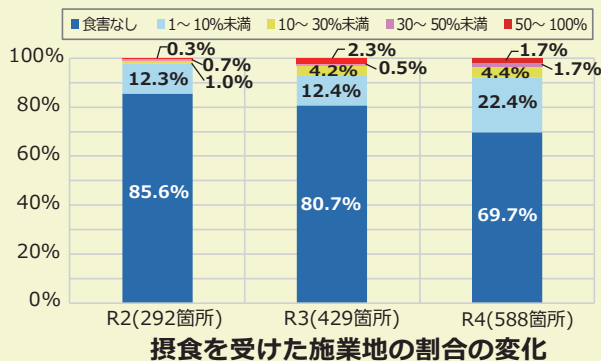
■ 被害の状況

被害が大きい施業地は、シカの日撃効率（※狩猟者1人が1日に目撃する頭数）が高い県央部や東広島市の南部に多くあります。こうした、シカが多い地域では特に徹底した対策が必要です。



■ 被害の状況の変化

令和2年度から令和4年度の変化を見ると、被害が生じた施業地は増えています。被害を防ぐために対策が必要な地域は今後も拡大する可能性があります。

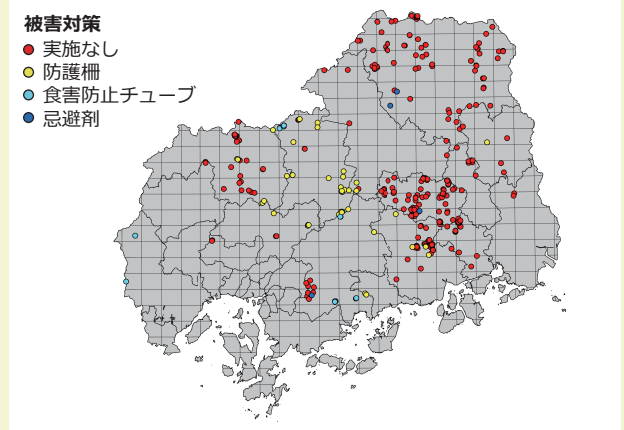
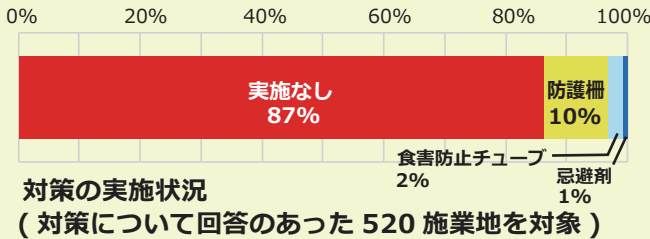


被害を防ぐために必要な取組

令和4年度の調査結果をもとに被害を減らすために有効と考えられる対策を紹介します。

■ 対策の実施状況

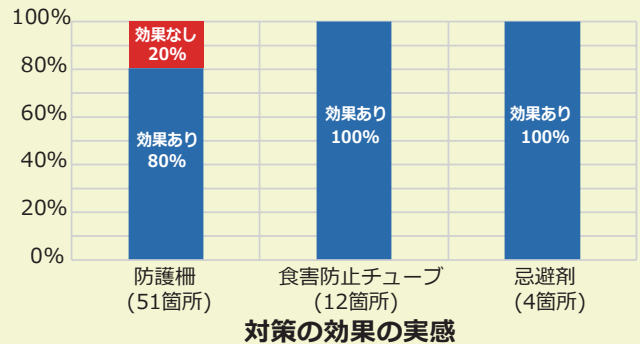
県内の87%の施業地では対策が実施されていませんでした。対策として最も多いのは防護柵であり、右図のとおりでした。地図で見ると、対策を実施している施業地はシカ密度が高い県中部に多くあります。



■ 対策の効果

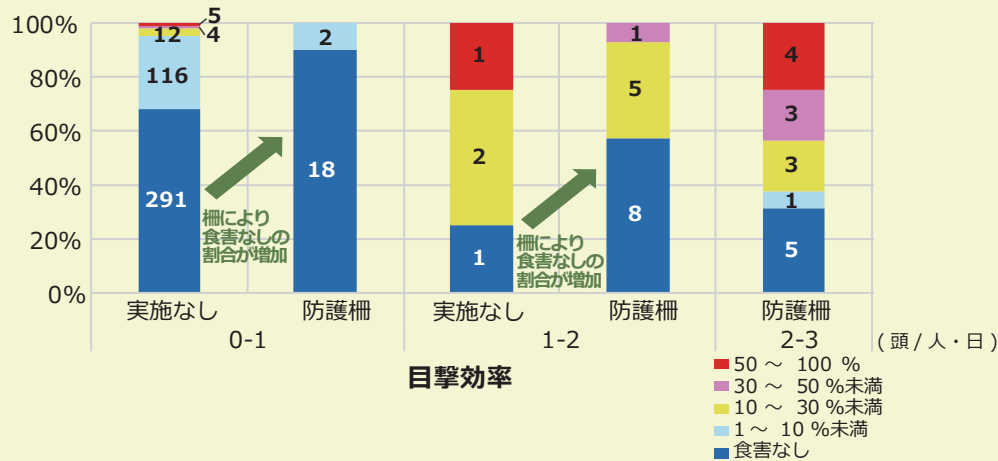
① 効果の実感

実施した対策のうち、防護柵ではシカに侵入され、被害を防ぐ効果が実感されていない施業地がありました。防護柵は、シカの侵入を防ぐ有効な対策ですが、効果の発揮には適切な設置と管理が必要です。



② シカの目撃頻度と対策による効果の考察

横軸は目撃効率で、右にいくほどシカが多く生息する施業地です。目撃効率が0-1と1-2で、それぞれ対策実施なしと防護柵を設置した施業地を比較すると、防護柵を設置した施業地で被害が軽減されていることがわかります。



二ホンジカ林業被害防止技術マニュアル

広島県では、シカの被害から植栽木を守るうえで重要な対策である捕獲技術に焦点を当てた「二ホンジカ林業被害防止技術マニュアル」を作成しました。

捕獲については、これまで被害を軽減させるための捕獲技術が十分に検証されていなかったことから、広島県では令和2~4年度の3年間で、「捕獲技術の確立」、「捕獲人材の育成」、「捕獲体制の構築」を目的に、モデル地区を設定し、実証事業を行い、技術的な知見を蓄積しました。

その結果、施業地に出没した個体を水際で迎撃する捕獲「水際捕獲」が有効であることが明らかになりました。

このマニュアルを活用し、被害防止に取り組んでいただければ幸いです。

マニュアルはこちらからご覧になれます

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/86/deer-forestry.html>

